

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）こんにちは。黒岩幸生でございます。3日間、市長さんの答弁を聞いていて、ほんなごて下手かにゃあという感じがしたですね。特に病院の問題のときもそうでしたけれども、病院の問題のときは公的医療ということが前面にぼんと出たですね。今度は個人情報てぼんと出ました。市長さんね。私は市長さんのごと高級やなかけん、私から見つきですね、市長さんこがんことでしょう。貸出カードは今までどおりと、もし希望者がおられれば、Tカードを付与しますということでしょう。

〔市長「そうです」〕

そう言えば何もなかつちやなかですか。

まあまあ、自分の質問に入りますけれども、議員の皆さん方にはきょうは3日目ということで大変お疲れのことと思いますので、どうか目をつぶってもらって結構でございます。しかし、耳だけはちゃんとこっちへ向けていただきたいと思います。

月日のたつのは本当に早いものでございまして、もう既に2年過ぎて、マラソンでいうならば折り返し地点に来ているところですね。小説でいうならば、起承転結——少し高級ですけどね、起承転結の転は大きく変わるということなんですね。つまり、私にとりましても、今まで2年間一生懸命一般質問で頑張ってまいりました。それで、この3年目で大きく実らせたい。いろんな結果を出したいと、こういうふうに思っているところでございます。

我々議員は議決権、執行部から提案されたものを議決していく。可否を判断する大きな責任を持っておりますし、もう1つは、一般質問ということ——今やっていますけれども、持ってあります。これは執行部に、市長さんとも対等に、おい、市長という話をされるわけですね。この場だけですね。一般質問だけは自分の主張が言える。自分の主張をするのが一般質問だと思っております。

しかし、用心しなければ、懲罰が出たり、あるいはまた辞任になったり、大変な結果が3月定例会にあったわけでございますけれども、議決機関の我々のことですがけれども、執行部から見て、4月臨時会で正副議長が辞任されたという不祥事があったわけでございますけれども、市長はこのことに対してどのように感じられたか、まず最初の質問とするところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと趣旨がずれていたら申しわけないんですけども、正副議長の辞任の話は物すごいニュースになりました。行く先々で、何でやめんさったとやろうかという話になりました。一方で、江原議員さんであるとか、共産党の新聞ですかね、もう自分たちが何か首をかり取ったかのごとくおっしゃる。それは、僕はうそつきだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

茶の間の皆さんにですね、テレビの向こう側にいらっしゃる皆さんに、この花がどういうふうに映っているかということをお伺いしたいわけですね。と申しますのも、ここはきれいな地デジで映っているんですよ。ケーブルワンさんのカメラも、いいカメラが入っているわけですが、残念ながら途中のケーブルがアナログであるということから、非常に画面がぼけるということで、私を撮ればこちらがぼける。こちらを撮れば——どっちかな。ですね。そういう意味でございますので、ぜひ茶の間の皆さん方、テレビの向こう側でごらんになっている皆さん方に、なるだけ画面を見ていただくように、先ほどケーブルワンにもお願いしたところでございます。

それでは、早速質問に入りますけれども——きれいかですね。3月定例議会の反省についてということで質問を出させていただいております。第1番目が今言いました正副議長辞任問題、あるいはまた議決の重みについて、さらには懲罰委員会の内容について、ここで市長さんに話をしながら、そして、どのように感じられたかということをお伺いし、執行部と議会は車の両輪のごとと言いますので、どちらが大き過ぎてもいけませんのでね、質問してまいりたいと思います。

これは4月26日の佐賀新聞でございます。うちは佐賀新聞しかとりよらんけんが。武雄市の正副議長が辞任という言葉が載っておりました。だから、25日ですよ。 「懲罰相次ぎ混乱」で辞任、任期中で——4年ですかね。「任期中で辞任するのは、病気の場合を除き初めて」だ。辞任の理由が載っていますけれども、辞任の理由として、任期中——2年間ですけど、任期中2度の懲罰が出されたと。そして、一度は「殴り込み部隊」云々と新聞に書いてあるんですね。

この殴り込み部隊云々は、私も加担しているんですよ。牟田議長さんに私は非常に悪かったなと思うんですけども、実は牟田前議長さんは皆さん御存じだと思いますけれども、あらゆる暴力を否定するというタイプなんですよ。だから、言論を抑えるじゃないけれども、こういう言葉は議事録から外したいかどうかという話を私は相談を受けたんです。私は余り深く考えんやっただけですけども、あなたがそう思われるのであれば、相談して消していいんじゃないですかと言ったんですね。それが大きな引き金になって、1つは言論の自由を妨害するとかいろんなキャンペーンを張られたようでございます。

もう1つは、懲罰を科した議員が謝罪文を読まず、議決が守られず責任をとると、辞任の理由を説明。そして、小池副議長さんまで連帯責任をして辞任した。これが4月——議決が守られた理由が、これが4月26日の新聞。4月25日の事件だったんですね。3月議会を引っ張ってですね。

その前に、3月28日の新聞に、今お見えですけど、実は佐賀新聞の記者さんの目にやっばりいびつに映った。それは微風強風ということで記者さんの目があるんですけど、ここに「内向きでいいのか」。議会本来の役目を果たせということで議論されていますけれど、「武雄市議会でも議員が懲罰を科された」、「江原市議、出席停止に」、一般質問発言で懲罰動議、さっきのがこじれていって、こういうふうになったんですね。

しかし、江原議員は、市長さん、さっきの間違いですよ。議決は守られたんですよ。出ていかれましたからね。しかも、討論、採決の最終日だったんですね。議員として一番大事なときですね。それでもちゃんと議決を守って出ていかれたんですね。だから、採決は加われなかったんですね。1票の重みがあるんですけども。

これ書いてあるんですけどね、これまで宮本栄八議員は戒告や陳謝の議決を受けている云々書いてありまして、次ですけども、出席停止は無理筋と採決を棄権した議員がおる。これは実は私と松尾初秋議員の2人なんですよ。棄権しました。それはなぜかといいますと、少し違うんですけども、懲罰動議が採択されても意味がないで、どうせ守らんぎ何も意味なかるうもんということですよ。それは反省もなく、陳謝の議決を守らない宮本議員に対して、ここですけども、議会として何もしない、それに反発して退席したというのが、これが真相なんですね。

市長にお伺いですけども、いろいろ言われていますけど、江原議員は、討論、採決の日、我々が最も大切な日なんですね。その議事を1日出席停止の議決を守られた。一方、宮本議員は謝罪文を読む——相手に対して、すみませんと言うてくれというその議決を守られなかったんですよ。市長は議決に対する2人の違いをどのように考えられるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ああ、すみません。江原議員は守られたんですね。それは本当に失礼しました。それは本当に申しわけなく思っていますが、まあ五十歩百歩だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

やっぱり五十歩百歩じゃないと思うんですね、市長さんね。討論、採決の重大なときでも守られたということは、私はすばらしいと思うですよ。

「議員必携」、議員が必ず持っている「議員必携」には、執行権と議決権というのがまず第1番目に載っていますね。議員ならばすべてこれを覚えにやいかん。市長は、先ほど市長が言いますように、執行権と議案、条例などを提出する提案権。市長が提案して議会は議決権、つまり可否を判断するんですね。例えば、先ほど問題ありましたけれども、飛行場論争

というのがあつたんです、飛行場論争。知つてですかね。飛行場論争というのは、飛行機をつくつたから飛行場をつくらせてくれ、これはだめですよ。飛行機を買いだめから飛行場をつくらせてとはあるんですよ。前準備して、どういう飛行機をかうかあるんですよ。だから、先ほどの議論も少しずれていたように見えたんですけども、市長は飛行機をかってきて飛行場をつくらせろというふうにかこえたと思うんですよ。まだ私は買った段階じゃないと思うんですよ。買いだめから飛行場をつくらせてくれ、その違ひがあるんですよ。だから、それを我々が可否を判断していくというのが議会なんです。

つまり議決権というのは、議会の持つ権限の中で最も本質的、そして基本的なものであり、ここは議会の存在目的ですよ。第1に与えられる権限である、これを議会の責務というんですよ。

さらに議決、ここ一番大事、議員我々も考えにやいかん。議決とは、「議員必携」に書いてある。議決とは、議会の統一した意思なんです。議決というのは議会の統一した意思をあらわすものです。だから、議決後は議員個人の賛成、反対の意見とは関係なく議決に従わなければならないとなっている。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

なぜかといえば、簡単な話ですけども、最近ないですけど、例えば議員歳費値上げ、反対、賛成ありますね。反対した方は議員歳費が上がったときもらわんかといつたら、もらいますね。片一方で顔つんでもらう人もいますんですけども、もう1つはね、実際うちでなかったかな。議員定数問題、黒岩幸生は20人と言つた、松尾初秋議員は30人と言つた。30人に決まるとしますね。私は、20人と言つて21番目に上がったとしますね。この前はけつやつたばつてんね。そしたら、おれはやめるか。やめんですよ。これが議会の統一した意思であるからですよ。それだけ議員の議決というのは重いということを「議員必携」にあらわしていると思うんですよ。

議員が議決を守らなければ、議会の存在目的そのものを否定するものなんです。議員が議決を守らなげ、議会の存在そのものを否定する。だから、ここですけども、市長さん、ここは何と読むんですか。だから——あつさり謝罪されたほうがね、私は議会人らしくろうと思ふ。持ち込まんで、あつさり謝罪されたほうが議会らしくと思ふんですよ。

先を言うばつてん、一般質問。これは議員に与えられた主なものの中には、一般質問と議決ということがあつたんですよ。一般質問というのは自由に意見が言えるところですよ。市長さんに対しても、えすうなし言われるところはここいっちょやけんね。自由に物言える。つまり、自分の主張ができる場所なんです。それに引きかえ、質疑というのは疑義をただすものなんです。疑義をただすもの。ここでは意見は言えないんですよ。さらに、質疑、討論、採決となりますけど、討論というのは、賛否を自分がこうだとあらわすところであつて、結論を出すところですよ。

だから、議員が自分の意見を言うためには一般質問するしかないんですよ。だから、だ

れが何回したかということがあらわれる。今回、表をつくりましたけれども、やはり迷惑かけるんでね、やめました。だから、一般質問でこれはどうですか——一般質問とは、議員、私の主張だということですね。だから、市長さん、市道何キロあるですか、ありがとうございますじゃいかんと思う。おかしかろうもんという主張をしなければならないと思いますね。

お伺いですが、市長は、一般質問に対してどのような考えで臨んでおられるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は一般質問に命をかけています。最大の生きがいだと思っています。それはなぜかというと、議会のみならず、多くの市民の方々がそれを見て、自分たちの生活がそこにかかっているからであります。あるいは夢がかかっているからであります。したがって、私は市政の最重要事項の中で一般質問というのは、その第1、第2に位置するものと理解をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。我々も一般質問を二、三日前につくってくるわけじゃないんですよ。6月議会が終われば、直ちにいろんなものを整理しながら9月議会に向かっていく。やっぱりこれがすべてだと思っているんですね。その質疑のときは執行部が出されたものを右、左ですから、やはりいろんなのをからってきてするのは一般質問しかないという気を感じております。

これは陳謝の議決が出されたときですけれども、宮本議員の悪口じゃなくて、どういうことだったのかということですね、少し誤解もありますので、書きました。実は、こども部長さんに対しての暴言だという話があったんですね。ここのところなんですよ。このまま不作為を続けるならば怠慢部に変えたほうがよい、怠慢部とは何事かとなったんですね。しかし、本来そこじゃないんですね。ここですよ、不作為はされていないと。こども部は一生懸命頑張っておられたて、頑張っておられたて。きのうもその話——きのうやった、おとといやったですかね。部長さんにちょっと苦言を申し上げたんですね。ちゃんと答えにやいかんですよと、不作為となりますよと言いましたね。それで、不作為を続けるならば怠慢部にでもすべきだということと、不作為はされていないので、それを怠慢部とは許せないということが激突したんですね。

結果的には懲罰動議が提出されて、それが陳謝の——ここですよ、議決がなされた。それは統一した意思ということですね。それで、懲罰には4段階あるんですね。非常に差が大き

い。戒告、陳謝、つまり戒告とは議長がだめですよと戒めるものですね。黒岩さん、だめですよ、これですね。陳謝、ちゃんと謝らばいかんよが謝罪文を読むんですね。この線を書いていますけど、これから下の大きな違いというのは、戒告や陳謝との違い、出席停止とか除名は議会の活動の制限を伴うんですよ。だから、松尾初秋議員と一緒に出たんですけども、1日出席停止、それも最終日、とてもじゃないけど守ってくれないと思ったんですね。またぞろやということで、我々はそこまで入りたくないので出たのがさっきの話ですね。

懲罰委員会、上野委員長さんが委員長になってもろうた。ならんて言いんさったですね。なぜならんと言われたかというのは——なってもらったんでしょう。人に懲罰を科すというのは私はできないとおっしゃった。そんなに偉くない、私はできんですよ。これは黒岩議員——私ですけどね、私が言ったのは、今回の懲罰委員会は懲罰を科すというより謝罪してもらうことで、こども部の名誉回復をしましょうと。そうしなければ、余りかわいそうじゃないですかと。懲罰委員会は人を罰するだけじゃないんですね。こういう話をしたけれども、結果的にはだめやった。

しかし、風の便りに聞いてみますと、ほかの場所で謝罪されたとも聞くんですよ。もしそうであればね、議員は議会で謝罪すべきだと思うんですね。議員は議会で謝罪すべきだとの声が私にも聞こえて、市長さん、お伺いですがけれども、今度は議決の重み、市長はこの言葉を日ごろどのように受けとめておられるか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議決に関して言えば、これは最大重いことなんですね。議決をいただいた事項に関して、私は誠実に執行する責務があります。したがって、この議決に関しては、私、あるいは議員もそうですけれども、市民がすべて拘束されることとなりますので、最も重い言葉だと思っていますが、まあ、病院問題でリコールを私にされたりとか、いろいろ考えたときは、武雄市議会はまだまだだなというふうに思わざるを得ません。

そして、今回、宮本さんの——これは酒の席なんですよ。こそこそって、悪かったとおっしゃいましたから。それでおっしゃって、いまだにやめた——固有名詞は避けます。部長さんは、自分は40年以上働いてきたと。一番悔しかったのは、怠慢部だって、うそっぱち新聞に書かれたということが最も悔しくて悲しいことだと。市長さん、名誉を回復してくださいと、やめた後でも言われるんですね。ですが、議会には感謝しているということはおっしゃいました。それはなぜならば、謝罪ということで議決をしていただいたということで上野議員を初めとして感謝をしているということは、彼女はそういうふうに私に伝えておられますので、これをもう一回、宮本栄八議員さんにお伝えをしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これは、実は私の携帯電話ですよ。ここに持っていますけど、これに3月15日、11時36分に入ったんですけれども、昼休み気づいたんですけどね。やじにもマイクをつけてほしかとあります。私にメールがね。なぜならば、私が江原議員から、黒岩議員とここで言われたんですよね。やっぱり私を信頼して見ている人は、何て言われたとやろうか、言うたとやろうかと心配してね、私の声が入らんもんですから、いかにも悪口を言っているということで聞こえたんですね。だから、そのメールが入ったんです。

江原議員の一般質問、これがあっていいときですよ。市長は私の——つまり江原議員ですね。江原議員の質問で太陽光発電システムへの補助金はやめると言ったではないかという話を何回もされましたね。このとき市長は、一たんやめるとは言ったが、議会と相談して決めると言ったとおっしゃったですね。これは我々があのとき言ったのは建設委員ですよ、主に言っていたのは。つまり石橋部長に、もう少し委員会の流れを言ってほしいということを書いていたんです。そしたら、江原議員にどう聞こえたか知りませんが、黒岩議員と言われて、さっきのメールになったんです。

どういうことかといいますと、平成21年の11月にできたものですね、市長さん。これは事務事業計画書、つまり平成22年から平成24年までに、これは事務事業計画の中ですけども、ここですよ。住宅用太陽光発電システム設置補助金とありますね。これが24年以降の事業については再度検討を行うということで、これはゼロ円になったんです。22、23年しかなかったんです。予算計画ですけども、21年度は国からもらいましたね。だから、22、23年の600、600で1,200万円で始めた事業でしょう。しかし、これはしょっちゅう建設委員会で話があったんですけども、実績は平成21年度が1,301万円、平成22年度は1,589万円、平成23年は2,700万円もあったんですよ。だから、24年以降はやめろという話にならないですね。

だから、建設委員会はこう言った。国や県がやめても続けるべきだ、これは市長さんには入ったと思うんですよ。だから、当初の計画では24年以降やめようということです。大体こういうのは起爆剤ですからね。しかし、国や県がやめても続けていくべきだということだったので、私は石橋部長さんに言ってくれと。聞きよって、バトルで長かったですからね。そしたら、部長が言われたことは、天下の大御所の江原さんと市長がバトルしよつとに口は出し切らんばいと言いんしゃった。江原議員がやめると言ったではないか、市長は議会の皆さんと相談して決めると言った、これが非常に評判が悪い。武雄市議会は何やと言われたんですよ。私も遠くから何遍もかかった。それだけ遠くの人が見ているんだと思ってね。私に言われたのはね、なぜとめんやったかという話です。しかし、一般質問途中は言えませんがね。こういうことがあった。

そこで、前は1番目でしたので、富士山をかきました。富士山はおこがましかったので、御船山を今度はバックに撮りましたね。市長さん、わかりますか、御船山。真ん中が武雄市民の皆さんですね。一番低いのが市長さん、しかし、これとがとっつでしょう、上さん伸びていきますよね。左側、これは議会といいます。なぜか。ちかっと先ひねくれとっけんね。お祝いの言葉を入れさせていただきました。そして、新しく杉原議長体制下で市議会の一新を祈念して頑張ろうということで、またお祝いを書きました。今度はそういうことのないように、我々ちゃんと聞かなければならないと思うんですね。

次の質問は、道路改良についてでございます。

黒尾繁昌線、あるいは中野線、それに武雄北方——インター西線ですね。あえて武雄北方と書かせていただきました。道路問題、市長さん、ここよく読んでくださいね。安全・安心はやはり行政の責任でしなければならない。さらに執行部の努力で道はできるということを刻んでおいていただきたいと思います。

これはどこでも見ます注意の看板ですね、市長さんね、看板。これを見たとき、みんなねと思うかですよ。皆さん、注意の看板を見たとき。そりゃ注意せにゃいかんですね。Sカーブ、学童多し注意。ここには武雄地区交通安全協会朝日支部となっていますね。しかし、我々議員や執行部がこの看板を見たときには、そりゃ、もちろん運転していて注意しなければならないけれども、我々がしなければならないのは、この看板を減らすということなんです。減らさなければならないということですね。

これは、ここなんですよ、この裏側にあったと。これはどこあるかですが、黒尾ですね。この先はS字カーブになっている。先が変則三差路になっていますね。白で書きますけど、ここはもとの朝日第2保育園、向こうから見たところなんです。こういう家があって、見通しが悪かった。それをぜひ市長さんお願いしますということで、市長も一生懸命頑張っていたら、40年来こういうことが言われましたけど、頑張っていたら、今は先が見えるようになった。この家がなくなったけんですね、先の車ははっきり見える。これがさっきの看板ですよ。これはさっきの金網ですね。こういうふうに曲がってましたからね。これは反対から見たところ。これが先ほどの看板ですね。こういう家があったために、右から曲がっていかなきゃならないんで、Sカーブ、学童多し注意、これを市長さんの力で先が見えるようになった。ここから見れば、先はきれいに見えるんですね。やがてここにはこういう真つすぐしたすばらしい道路ができると思います。そうすれば、先の車がきれいに見えますね。

では、ここに——ちょっとぼけとるですね。この注意の看板——なし、がんばりかよくわからんですけども、ここに注意の看板があります。先がありますけれども、それは長い間、御苦労さまでしたということで外れていくということですね。

市長にお伺いですが、この注意の看板、当初言いましたように、看板が要らなくなる、そういう行政を目指すべきだと思いますが、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

大分反発も当時ありましたけれども、私は、例えば「武雄温泉歓迎」とかという看板どんどん外していったんですね。非常に景観によくないということと、余り看板が多過ぎると、本当に注意していいものがわからないということになりますので、すみません、これはちょっと私の不注意で、おとつい、ここをランニングで通ったんですけどね。ちょっと気づかんやったので、もし、あった場合にはこれを撤去して、ラオスとかミャンマーとかに売っていきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さんも意地の悪かですね。わかっとして、そがん——こういう看板があるところは外していいように改良しましょうということですね。看板だけなくせて言っとらん、わかってわざと言うたでしょう。今のとはいやらしかですよ、市長さん。

こういう看板は我々議員が要らなくなるように、ちゃんと道をつくりましょう、けがしないようにしましょうという意味ですから。市長さんも冗談の上手になったですね。

次は、中野の道路ですね。ここが瀏上工務店さん、道の両方に今立派な白線引いていますね。ここは実は私の40年来の付き合いの中原幸信さんというところが仲のよかですよ。その方がね、私に——同じ「ゆきお」ですから、あれも「ゆき」ばってんね。ゆきちゃん、ここ何とか広げてもらえんやろうか。車の離合するとき、ごっとい瀏上工務店さんのところの入っていくもんやけん、しょっちゅうU字溝が壊れると。そいないば一緒にしゅいということで、区長さんと一緒になって、中原さんと一緒になって一生懸命して立派な道路ができた。広がったんですね。それはもちろん執行部の努力のおかげですよ。

今しているのは、この先。この先の、ここは武雄市消防団第2分団第5部格納庫、中野ですね。この小さな——小さなて怒られるけど、先が中野の公民館がある。見ただけで狭いですね。しかし、両側に家があるために、なかなか広げることが、道路拡幅ができなかった。上から見てみますと、このように家が点在している。だから、非常に難しいと思っていたんですね。しかし、ここにありますように中原幸信さん宅ですけど、幸信君が中心となって、区長さんと一緒になって話したら、お互い譲っていいよという話で、今はこれが大きく、ここからここまでの拡幅計画が進んでいる。間もなく公民館まで立派な道路が、用地買収できれば、もう目の前ですから。そういうことなんです。

つまり、地元の熱意、それと市役所の熱意、この両方がかみ合わなければ道はできない。つまり、道路を拡幅しようとする発想、やる気、それがまず必要だと思いますけれども、市

長はどのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感です。これが政治だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、今回、中野の話じゃないですけども、今のいろいろ道路を指摘して、改めて思ったのは、道路を拡幅したくない人や改革をしたくない人は何かと理屈をつけるものですね。けちとは言いません、何かと理屈をつけるものですね。ここですけども、今真っ黒ですね。改革をしたいから問題提起している人と、改革したくないから理屈を言っている人の区別は絶対必要だと思ったところでございます。

これは、インター西線、少しぼけるかもわかりませんが、インター西線ですね。つまり、34号線から県道朝日線まで通っているんですね。ここに実は前から言っていたのが、防犯灯の増設をということがなかなかできなかったんですね。それは朝日と西宮裾と東宮裾にまたがっているということで、なかなかこれができてこなかった。

しかし、これらは、ある日ですけども、名前言っていいかな、今度、区長会長されています北方の松田区長会長さんが、なしこいに防犯灯のでけんとかで、子どもたちは困っとっじゃかって言いんさったんですね。実は、3区にわたっつけんが、維持管理費のなかなかええとこいかんとですよて言うた。そしたら、松田区長さんがおっしゃったのは、私にこう言われたんですね。よか、そういうのはおいが出すけん、つくれ。これには私も閉口して、うちの前区長の後川区長さんと一緒になって話し合いをして、今つけてもらったですね。

ここは今立派な道路計画をしてもらっている。と申しますのも、県道朝日線のところ、そしてこのカーブのところですね。さらには道が狭い。そして、中原さんが勤めておられる鹿島機械の前のところ、しょっちゅう事故が起こるんですね。これは県道北方朝日線ですね。こっちが側道。今、車が出てきていますね。まだ1カ月なりませんが、大事故が起こった。部長さん御存じですね。軽自動車 came とき、向こうからトラックがはねて、こっちの端まで飛んだんですね。ここは橋脚がありますので、ちょいちょい自転車と車の事故が起こるところで非常に危ないところなんですね。先が曲がっていますね。つまり、カーブで狭いということで、ここも非常に危ないですね。これは歩行者がやっぱり車が来るたび怖いから振り返るといふんですね。車も徐行をしております。

それから、ここが先ほど言いました、こっちが鹿島機械さんのほうですね。ここはファミリーマートですか。車は向こう向いていますけど、こっちに来るときは、ここに国道34号線

出るとき、電柱ありますね。そしたら、こっちの道は高速に乗る道なんですね。それで、ここでしょっちゅう事故が起こる。という、4カ所も5カ所も悪いところがある。

それで、今度、石橋部長さんの力で、きのうは吉原さんの話やったですね。3メートル、3メートル、歩道3.5のですね、こういう立派な道路が計画を今してもらっているんですね。幅11メートル、ここと一緒にしたいですね。

これはきのうの吉原議員の話を聞いて、早速写しに行ったんですよ、3メートル、3メートル、3.5というのはこういう道ができますよということですね。ちょうど子どもが帰りよったので、おっちゃん何しよって、にこやかに喜んでもらったんですが、こういう安全な道を今つくろうとしているんですね。

高橋武雄線ですね、これをきのう写してきました。

つまり、インター西線は中村電機さんのところが起点で、34号線が終点ですね。この間をそういう道路をつくってもらおうということで、今一生懸命頑張っていますけれども、問題はこの場所なんです。これは反対から見たところですけども、この場所が道路はこうできていくんですね。これは側道です。左、今赤で出たでしょう。それが見えたですかね。上から見ますと、ここが側道ですね。ここに道路がありますから、左に道路がありますから、公安委員会はここに十字路をつくれと言うんですよ。そしたら、この側道は利用できない。そうしますと、どう考えても、こういう道路しかできないんです。

問題はここですよ。ここの土地の持ち主の方、この道をどっちに振っても、両方に残るんですね。名誉のために言いますと、この方はもともとここを持っておられたんですよ。もっと上のところ。今、中村電機さんの駐車場になっておるですもんね。しかし、自分はここに田んぼを持っているから食うしこあるけんということで、こっちを手放されたんですね。その人のど真ん中を行くと、やっぱり忍びないんですね。田としての機能回復はできない。そこで、市長、全面買収はこういうところではできないかと思うんですね。そうしなければ、とてもじゃないけれども、話ができない。

市長さん、市長さん、こっち。新幹線が通ろうとしよっですね。そのとき市長はおっしゃったですね、機能回復するため全部買えと。一緒の気持ちですよ。ぜひともここを、インター西線の路線を完成するため、全面買収をしていただきたいと思いますと思いますが、市長、ほかにもあるかもわかりませんがね。こういう難点については思い切って、そして、ほかのところにも土地を求めてもらう考えが必要だと思っておりますけれども、どのようにお考えか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

インター西線の道路の件で、両側に残った土地をどうにか買収できないかということで

ざいます。

私どもの事業では道路事業でございまして、道路区域の分のみの買収しかできないということになります。したがって、できれば隣接者の方で同じ用途として取得協力していただけるという考え方は持っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だからね、部長さんね、そういう話があれば一般質問出しませんよ。私もこれを出すためにはいろいろ考えて、代替はできないかいろんなことを考えましたよ。隣の人にも頼みをした。できないから今お願いしているんですよ。じゃ、このインター路線はできないということですよ。そう考えていいですか。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

私、先ほど答弁した原則論のことを申し上げましたけれども、実際的に設計してみて、どれだけの幅がかかるのか、あるいはそれに対する周辺の工作物等も検討いたしまして、相殺設計した段階で、それで、じゃあ、幾ら残るのか、その辺を見きわめさせていただきたいというふうに思います。それで、残地補償という制度もございまして、その道を通すことによって形が変わるということで価値がなくなると。その価値が減る分の補償をしましょうという残地補償制度等もございまして、したがって、議員おっしゃいましたように、全部買収ということも一つの方策でございまして、いろんな面で検討させていただいて、もう少し時間をいただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

もちろん時間をかけてさせていただきたいと思いますが、11メートルの道路は前の前ですけど、どっちに行っても残るんですよ。この側道が利用できれば、それは端ですからね、半分減っても怒られるということはないですけど、そうないですね。しかし、真ん中をとられれば、それはこの方はね、やっぱり我々も道をつくるためと言えないですよ。全面であれば、我々も努力してどこか代替地を探してきますけれども、ここをとる人はいないですからね。そうすれば、のど口ができなければ道ができないんですよ。今後、供用になっていこうと思いますが、きょう地元の区長さん来ておられますけど、地元の区長、これ一番頭が痛いところなんですよ。そういう苦労はやっぱりあるんですよ。いろんなところで我々は金が要るから、だから、そういう金をつくるため、図書館でもいろんなことの努

力しながら金をつくっているんじゃないですか。ぜひとも温かい考えをしていただきたいと思います。これだけでつぶれてもいけませんので。

次、これも悲しい話ですけれども、京都府亀岡市であった事件ですね。事故です。これは引率者を含む10人が、児童の列、2人死亡、残りの重体が2人、それで重傷6人でしたね。しかし、その後、実は3人の方が亡くなられた。ほかの方も取り上げられたんですね。これは無免許の18歳逮捕ということになっているんですね。これを上から見ますと、ここここがもともと水路ですよ。そして、両側に65センチの溝があったんですね。これを埋め立てた。そして広くした。しかも、7時から9時までは一方通行にしたんです。だから、子どもたちは右側を、車は左ですから、一方通行ですから安心して子どもたちは行っていた。亀岡の例ですよ。どうなったか。無免許居眠り運転が突っ込んだ。そうすれば、その後の話ですけど、まだ私は知りません。しかし、恐らくするのが、ここにガードレールを設置しよう、どうしてもこうなっていくんですね。しかし、こういうこともあるということを我々は先ほどの注意の看板じゃないですけどね、先に考えるのが我々議員であり、執行部だと思うんですね。

道路というのは車を走らせるためだけではなく、子どもやお年寄り、さらに地域住民の安全・安心、これを保証しなければならないというのを我々も市長も執行部も一緒になって、武雄市民のために頑張っていかなければならないということの苦言を申し上げておきたいと思います。

次は、廃棄物の広域処理について。これは3月定例会でもここで質問しましたけれども、廃棄物を取り巻く状況、それから佐賀県西部広域環境組合での取り組み、さらにはDBO、設計、施工、運営を一緒にするんですね。1つの会社がやっている。DBOの取り組みに出していますけれども、このDBOについては時間の関係もありますので省かせていただきまして、まず、廃棄物を取り巻く状況、考え方について質問をしてみたいと思いますけれども、くみ取り料金の考え方ということで出させていただきました。ある業者さんと話したときの流れですね。多くの市民の皆さんというのは、料金値上げはもちろん反対でしょうね。多くの市民の皆さんは、有権者の皆さんですね。有権者の皆さんは1票の行方は持っているんですね。1票の行方を持っていれば、議員や市長は料金値上げに積極的じゃないですね。消極的でしょう。そうすれば、どういうことが起こるかといいますと、業者さんの犠牲の上で成り立っているというのが現実なんですね。

くみ取り料金、17年間改定されていないという話を聞きました。私も聞いたとき、あら、もうそがも上げとらんやったかにゃというぐらいの関心ですね、我々は。業者さんがおっしゃったのは、うちは幸い産廃ばしよっけん、産廃でもうけたとば突っ込みよるものう。17年間上がとらんでも定期昇給はやっぱりせにゃいかんて、そっちから突っ込みよるよという話をされたんですね。やっぱりこういうことを我々は胸に刻んどかにゃならんと思うんですね。もう、1票の行方見て、こればいというわけにはいかんと思うんですね。やっぱり

いろんなことを考えながらいかなければならないということでございます。

佐賀西部広域環境組合、これは武雄市、山内、山内を省くもとの杵島6町ですね、それに伊万里、有田、さらには鹿島・藤津が一緒になって今4市5町の広域圏を組んでいるんですね。これは3月定例会に出しましたけれども、処理能力と処理量の比較ということで出させていただきました。武雄市がやはりオーバーしている。伊万里、有田もオーバーしている。鹿島・藤津、それから杵東も全部オーバーしているんですね。総合計で443の能力に対して、処理量が530来ているというんです。つまり、処理能力に対して処理量が多い。この原因については、各センターでつぶさに把握されているとは思いますが、しかし、今回そのことに触れませんが、結果的に1日87キロオーバーしていますよというのが実態。もちろん老朽化の話もありますけれども、処理量が多い。この実態というのは担当が非常に困っているということですね。

それで、これも3月定例会に出しましたけれども、つまり、22年度の新たに発生する汚泥、処理した後に発生する量は年間7,200トン、約1億円以上を使っているんですね。つまり、新たに発生する汚泥7,200トンは広域で処理するほうがベストだと思うんですね。

実は先月、薩摩川内に行ってまいりました。薩摩川内のし尿処理センターですね。下に書いてありますように、平成20年4月から、ここはDBOで始めたばかり。先が新しい建物で、手前が古い建物ですね。し尿処理センター、しかし、汚泥再生処理センターというんですね。汚泥処理へ最新技術を突っ込んでおるところです。つまり、処理過程は、まずセンターで受け入れをします。そして、主な処理と高度処理——高度処理とは活性炭処理ですかね。一般的な処理をした後は、放流するんですね。問題なのはここですよ。新たに発生する汚泥の処理なんですね。これは処分を外部へ依頼するところ、これは4市5町みんな外部依頼ですね。1億円以上かけてやっておりますね。もう1つは、自家処分、ほとんどは肥料ですね。最近、新しく見聞きするのが、助燃剤、これを燃やすというんですね。もう1つが炭化なんです。

(ペレットサンプル瓶を示す) これですよ。これは薩摩川内の汚泥ですけども、スラグみたいにかたくなかですね。少しやわいですが、ペレット状。これが炭になっているんですね。炭化している。つまり、これは日本管財環境サービスの藤田所長さんとお会いして、いろいろ話を聞いてきたんですけども、ここに書いているDBO、デザイン・ビルド・オペレーションというんですか、設計、施工、管理を一緒にするんですね。金まで出すのがPFIですかね。これはDBOをされておる。非常に経費を始末している模様を聞いたんですね。DBOについては、後日また話したいと思います。

そこで、ここなんですね。炭化炉、炭をつくるとが、これはここに炭化炉がありますけれども、ここに助燃バーナーと書いていますが、助燃バーナーで最初炊けば、あとは自燃する。自分で燃えている。そして適当なことでとめれば、先ほどみたいな炭ができるんですね。私は、これ助燃剤と思って行ったんですけど、実際中身は違ったんですね。これを肥料にして

いた。ほとんどは窒素肥料でしょう。しかし、これは焼くことによって、燐酸が残るんですね。そして、キロの5円でメーカー卸をしていると。肥料会社には、それにまた掛けてやっているということですね。こういう時代がやってくる。

つまり、広域圏構想、市長さん、今一番いいのは新たに組み直すというよりも、4市5町で、やはりこのことについてもう少し――担当課はこの前、会ったそうですね。ぜひとも4市5町でやろうという雰囲気にならないのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も広域圏の4市5町で検討の時期だと率直に思います。もうオーバーフローしているということは、そのとおりだし、広域圏で行うということは理想だと思うんですが、その一方で、実際、杵東のほうで実際それを我々も加入してそれを動かしているところでもありますので、関係の首長4市5町のみならず、そちらの首長さんたちもいらっしゃいますので、よく協議をしたいというふうに思います。実際、議員御指摘のとおり、ここで枠組みを変えとかなないと、もう大変なことになるというのは認識を共有していますので、そういった意味でのまたリーダーシップをぜひ発揮してほしいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長さん、あえてごみは県が広域圏構想を出すけれども、し尿は全く出さないらしいですね。県を待ってっても一緒ですからね。それで私も幸い広域圏の議会議員ですので、何かのとき、議会選出の議員でも寄って話ししようかなという考えは持っておりますので、我々だけ行けば片肺になりますので、ぜひとも市長さん、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、図書館の運営管理委託についてということで出しています。

つまり、派生する問題解消についてということで出していたんですね。これはここで私が3日目ですので、いろんなことを聞いて、最後にいろんな話をされるかなということで出しておりました。しかし、かいつまんで見てみますと、個人情報漏えいの問題が1つあったと思うんですね。それから、レファレンスへの不安、これはいいということですね。官業が民業圧迫とか言いよんさったですか。本当にわかって言いよんさっかねと心配したんですけどね。官業が民業圧迫と言え、市長さんね、そりゃ、市民病院が一番、官業が民業圧迫と思うんですよ。ただ、それだけの仕事をしていなかったらね、民業が圧迫しなかっただけ。あれだけ金を入れればね、本来であればほかの病院つぶれますよ。

それはいいですけど、レファレンスへの不安の声、これがあったんですけども、個人情報保護法ですか、戸籍、住民票、職歴、犯罪歴、家族などなどですけども、こういうの

が図書カード、借りるとき要らんわけでしょう。ですね。要るとすれば、本の趣味、これに分析システムをかけると言いきったでしょう。これは非常にいいことだと思う人もいるね。CIOの山崎さんと先日、話をした。あの人は難しい本を読むんですね。アマゾンではちゃんとですね、この前、読んだ、似たような本というんですか、それらしい本があれば、こういうのも山崎さん出ましたよと教えてくれる。あの人、忙しいですからね。そして、専門書が多いですから非常に助かると言われてたんですね。このことだろうと思うんですね。ちゃんと趣味がわかるから、あなたにやりますよと。

ただ、市長は先ほど私に言いましたように、最初からね、これは任意ですよ、貸出カードは今までどおりですよ。もし任意でよければ、TSUTAYAのカードも使えますし、カードを使えばポイントができますよというふうだね、やはりこれからは市長さん考えにやいかんのは、我々は国民背番号ですか、いろんなのを出していますけれども、任意の方はすると。希望者はするということをやちゃんと分けていかなければね。これは全部にはめることじゃないわけでしょう。いや、私は少しぐらいいろいろ趣味ばれてよかけんが教えてくださいと、8割方これですよ。もしそれが怖い人は入らなければいいわけでしょう。何でそこがもめるかな。

一緒のことがあったのがね、公的医療ですよ。私は病院で散々たたかれましたからね。公的医療がなくなる。公的医療がなくなったのを今出してほしいんですね。民間ですから。ここがなくなったじゃないかと出すべきなんです。出ない。終わったら出ない。公的医療は何だと思いますけど、そのうち出るでしょう。（「出ないですよ」と呼ぶ者あり）

それで、図書カードの方法は変わらないと思うんですね。余り図書館に行ったことないから知らんばってん、カードはほぼ変わらん。そして、希望者、この希望者はTカードを利用できますよ、そしてなおかつ分析システムを利用できますよ、そうすれば少しは名前が出るかもわからん。しかし、こっちに来ますか、こっちに来ますかで分かれ目である。だから、上のカードのほうが変わらないというのが主だと思うんですね。

私、けさ思ったのが、今度の日曜日ですかね、父の日でしょう。うちの孫——しょっちゅう出ますけど、今もう2年になりましたがね、うちの孫にもし先生がね、今度は父の日やっけんが、少し重たかばってん花ば持って帰れというぎ、2年生ぐらいは文句言わんかわからんばってん、4、5年やったら文句言うんですね、こがん重たかとばやて、なしや、父ちゃんおいやなかって言うんですね。しかし、希望者は持っていけと言ったら、だれも文句言わんです。一緒のことだと思うんですよ。希望者の方には貸し本にTカードを使った方にTポイントを上げますよ。

それじゃなければ、私はもう1つあるのが、考え方としてTカードを利用したいと思ったんですよ。これに入る前に、ああだこうだ、ああだこうだ言って、論議ができなかったんですけど、私だけ論議しますけれども、つまり5月5日の新聞ですよ。私は新聞で見ました

からね、佐賀新聞ですけどね。市立図書館の運営を、レンタルソフト店TSUTAYAを運営しているCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）に委託をと書いてあっですね。これを見たとき、あっ、やったな、いいところいったなと。それは吉川議員が3月定例議会のときに年中無休、4時間延長ということで、ここで表を出して言われたですね。ほんなごでくっとかにゃと思った。銭の要るやろうにゃと思ひよった。それができたのを見たときに、わあ、よかったね、私は素直によかったと思った。そして、問題が出るところがあれば、先ほど諸問題書きましたけれども、問題が出たときには、そこのところをお互い話し合っ問題解決していけば、年中無休、4時間延長、つまり武雄市が図書館委託計画と載ったですね。さらには、TSUTAYAを運営会社にと、3番目ですよ。年中無休、開館4時間延長、利用カードはTカードを利用していいですよということです。利用せんばじゃなかですね。利用できますよというんです。そして、本を借りた人にはTポイントがつきますよ、つけてあげますよ。ここです。年中無休、開館4時間延長、これを手に入れるためには、我々はいろんな努力をせにゃいかんと思うんですね。あぐらかいとったけんてされんですよ。悪かところのあったら直していけばいいじゃないですか。余り言いよったら、私がTSUTAYAならもう来んですよ。

つまり、私が言いたいのはここ。Tカードを行政で利用することができないかということです、今後ね。私カード2枚持っっ、私カードは好かんですよ。キャッシュカード持たんですよもんね。しかし、5月5日見たもんやけん、TSUTAYA行ってきてつくってきたですよ。Tカード、武雄のTですよ、これ。これは助かるカードと思うんです。助かるカード。今から言いますけど、これはSuicaですけどね。これは市長さん、Suica、市長はごっとい使うでしょう。私は初めて使った。この前、実は東京に行ったですね。花のお江戸にね。それは古賀誠先生に会いに行った。国道34号線バイパスが、やはり江北までつながなければならぬということで、大町をどう通るかということで話し合いに行ってきた。陳情に行ってきた。そのときに買ったのがこのSuicaですね。便利ですね。

今まで東京行くときには小銭ば持っていけと言われた。今、かざすだけですね。区間の料金——ここ書いとったね。モノレール、地下鉄、山手線、何もしない。ぺたっつすぎ、すっつと行くですね。今まではこうして見よったでしょう。すぐお上りさんてわかるごとね。今、お上りさんじゃなしよか、ばってかざしてさっつと行かれるけんね。水戸黄門のごたっつですよ。それから、区間料金は知らなくていい。そして、指定された店舗で買い物もできるですね。残金はまた入金機で確認できるとしておりますね。

このときですね、実はこれ、うれしかですね。モノレールの中で見た話ですけど、1坪3万円台、立地企業募集、佐賀県武雄市、やっぱりよそに行くぎうれしかですよ。企業立地課が一生懸命頑張っているなということで、見たので撮ってきました。使い勝手のよい一面フラット、18ヘクタール、先ほど吉川議員も書いてありましたけれども、ここですよ。こ

れを全国のものにしてみたら、これだけ南を向いた工業団地というのは恐らくないと。工業団地にするとほもったいなかごたっですもんね。ということだと思っんですね。

もとに戻りますけれども、これがTカードですね。このTカード——これは私持っていますけど、JCBが入ったTカードプラス、JCBクレジットカード機能がついているんですね。これはTカードプラスということでクレジット機能が1.5ポイントふえるんですね。将来、あと5年か10年、どうかわかりませんが、これですよ。右下、地域通貨になっていくとじゃないかという考えは、ぜひとも我々は発想せにゃいかんです。これを使うことによって、地域通貨まで変わっていくんじゃないか、また、そうすべきなんですね。

これがTプラスじゃないですけども、これですけども、図書利用者にポイント付与というんでしょう。そしたら、こういうこともでくっと思う。ボランティアや福祉をした後には市がポイントをつけてやる。ポイントで還元する。いいでしょう。防災背番号を載せることもできるですね。これはもちろん希望者ですよ。また怒られますから、市長ね。もし、希望する人があれば、防災背番号で世間にないんですけども、東日本で人物確認ができないで非常に悩んだですね。だから、カードに自分を載せておくんですね。さらにはかかりつけ医師なども載せられるでしょう。そして、もう1つは電子カルテもそのうち載せていきますよ。つまりTカードが助かるカードになる。

市長、なぜこれを私言うかというぎ、実は私、造影剤に弱かです。造影剤で心臓がとまりそうになったんですね。今は口下手ですけど、少ししゃべるけんが造影剤だめですと言えますけれども、頭打って話がでけんときに造影剤を打ったら、検査する前に心臓がとまるんですね。だから、もしこれに書いてあれば、武雄の皆さん、これをそういうカードに使っていますよとなれば、助かるカードを見てね——これに付与できればよ。そういうことも将来できていくんですね、あるいは電子マネーにもなっていくということですね。

それで、市長にお伺いですが、Tカードに——希望者で、きのうしっかり書いてきました。またくわるっけて思うて。希望者に背番号などを行政サービスで載せる発想、これをどう思われるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はこの意見には大賛成であります。すなわち、Tカードというのはもう社会的インフラになっているんですね。というのは、国民の3人に1人強が三千何百万人でしたっけ、お持ちなんですね。一番、例えば世田谷区とか港区になると、半分以上の人が持っている。武雄市でももう3割以上の方がお持ちであると。だから、国民3人に1人になるわけですけども、新たに、例えば住基カードなんか、あれは駄作なんですよ。広まるわけがない。だから、今あるカードに、今あるものを活用して、こういう情報が載せられるのであればね、

それは僕は本当に素晴らしいと思う。ただし希望者です。怒られますから。希望者にそれを……。

これね、山崎最高情報アドバイザーが常々おっしゃっていたことなんですね。1枚のカードで、先ほど議員御指摘のように、例えば、自分の——病歴と言ったらちょっと語弊がありますけれども、そういったことを載せられるとか、あるいは電子マネーになるとか、例えば、ある方はこんなことをおっしゃいました。ちょっと長くなりますけど、生活保護者にもポイントで渡せばいいと。どういうことかという、武雄は違いますよ、武雄は。あるところでは生活保護費が入ると、もう途端に娯楽の施設がふえるという話を聞いて、これは笑い事じゃありませんよ。それはおかしかろうもんと、生活必需品を我々の貴重な血税で——次長課長とかありましたけれども、それをやっぱり最初に活用するのが筋やろうもん。だから、ポイントの加盟店がそういう娯楽の何とかではなくて、そういう生活必需品とか、地域のお店を登録していれば、それはポイントできちんと出したほうが、より生活保護で、例えば出して申しわけないんですけれども、それに合致するんじゃないだろうかという意見も私のところに来ております。それが技術的にもう可能なんですよ。

ですので、CCCはどういうふうに考えているか、私は知りません。この件に関してはまだお話をしていませんけれども、やっぱりこれこそIT特別委員会でやっておくんさい。その中で、こういったことをやりたいとか、やらんばいかんろうもんということを出していただいた上で、これは個人情報の関係にも、これはかなり機微にわたりますので、慎重に進める必要があると思うんですけれども、これは多分もう世の中的には数年たったとき、こうなっていくと思います。ですので、私は希望者に対してこれをぜひ進められるようになってほしいと、私自身そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これだけITが進んでいけば、やっぱり市長さん、分けにやいかんと思うんですね。希望者と、市はちゃんと普通のサービスしますよ。しかし、リスクがあっても、いいサービスという人はこっちがとれますよというのをやっぱり考えていく時代だと思うんですね。ぜひとも、今後、よろしくお願ひしたいと思います。

次に、公認グラウンドの必要性についてでございますけれども、山内の町民グラウンド改善について3月定例議会に出しておりました。返事がよかったものですから、私としてもいろいろ調べてまいったんですね。都市公園に指定していただいたんですね。ここは直線が6レーンしかとれないんですかね。もう少し北に伸ばさなきゃいかんですけど。区長さんから怒られますけれども、なぜ、私は北方の者のくせ、山内を言うかといいますと、山内は非常にグラウンドが多いんですよ。北方は少ない。だから、したくてもできない。それで杉原

議長さんをお願いをしてね、ここに芝生を植えたらどうだろうか。北方に植えたらグラウンドが少ないもんですからね、やっぱり町民の皆さんからブーイングを食らった。しかし、山内はいろんなグラウンドがあるから、ここに公認グラウンドをつくろうという話で山内という話をしているだけなんです。決して私は北方非国民で山内を言っているわけじゃございませんので。

それと、補助金の活用についていろいろ国土交通省の補助金を考えて見てきました。事業費が半額などを見てきましたけれども、実はきのうの2時ぐらいですよ。国土交通省の補助金として、面積要件が市民1人当たり10平米以下となっているけれども、今回、山内の中央公園すべてを都市計画区域に指定したために、10平米以上になって、国土交通省の補助金は使えないということなんです。きのうですよ。国土交通省の補助金、事業費の2分の1ですよ。文部科学省は1億8,000万円でしょう。これを使えば、山内町のグラウンドであれば、例えば、20億円かかったら10億円を国土交通省を使う。あとの10億円は、もし市長が許していただいて合併特例債を使えば7割が補助、3億円でできるということで非常に考えてきた。私はこれしかないと思って、この前からこれだけ補助金調べたんだよ。

しかし、何ですか。これしかないということで、とても調べた。3月議会からみんな調べて、しかし、先ほど言いましたように、10平米以上になった。プロですから石橋部長が知らないわけじゃないですよ。きのうから、私の頭は今真っ白ですよ。聡明な石橋部長さんがね、適用要件10平米を知らなかったと絶対思えん。知りながら都市計画を故意に広げたとしか私には思えない。悪意を持って私の希望を踏みにじったとしか思わんですよ。考えられない。この質問、取り消します。

次はIT行政についてでございます。

議事録の3D検索、そしてPCの保守点検について、さらには無線LANの活用について質問を通告いたしておりました。

PCの保守点検については、いろいろと係の苦勞も聞きましたし、ここで言うのはちょっと酷なこともありましたので、やめて、今後、いいほうに向かっていこうということで取り消したいと思います。

議事録の3D検索についてでございますけれども、検索というのは何のことか。調べて知ることなんです。知るために調べるということですね。だから、この前、IT委員会からですけども、PDF化された議事録を高速回線にすべて投げ込むんですね。そして、3D検索をすることで絞り込む。これのデモをつくってくれという話をしておりました。

これはきのうの話ですけども、フェイスブックの情報が迅速化している。これはいいことですね。セリタクレーンさんがぱっと写して、すぐ持ってきた。しかし、実際市役所の情報処理はどうなっているか。きのう市長はこうおっしゃった。マニュアルより人の輪だとおっしゃった。じゃ、情報処理はちゃんとここはできているのか。「探さない、訊かない、訪

ねない」という機械のかわりが、市役所は情報処理ができています。外からフェイスブック越えてインをする、入ってきますね。処理をしてアウトをするんでしょう。「探さない、訊かない、訪ねない」、できていますか。

話はほかのところですけど、実はあることで武雄市役所に電話をしました。私の携帯電話からでしたけれども、そしたら女性の方が出られて、どういう御用件でしょうかと言われたので、私はこうこうしかじかと話をしました。しばらくお待ちください、キンコンキンコン鳴っておりました。しばらくして男の方が出られました。どういう御用件でしょうかとおっしゃった。また話さなければならぬ。それだったら初めから課長につないでくれと。探さないどころじゃない、探しまくる、人に訊きまくる、そして訪ねまくる、これが今実態ですよ。だから、ここを3D防災マニュアルをつくりましたけれども、この3Dを使って、「迅速&ノーミス」の確立をしようというのがIT委員会と市長さんの今までの話じゃなかですか。

私は逆戻りしたと思いませんけどね。きのうの市長さんの話を聞きよって、心配したんですけど、情報処理の部分ですね。「迅速&ノーミス」の確立、つまり的確な情報処理と事務処理を直ちに行える状態を市役所はつくらなければならぬ。そしてまた、国や県への申請書類が自動的に選別できる装置をつくりましょうと。それは行政文書の電子化なくてはできない。これが市役所のペーパーレス化、これを目指そうじゃないですか。ペーパーレス化することによって、迅速、ノーミスはできていくということで、私も市長も一緒にペーパーレス化に向かっていっている究極はここなんですね。それでPDF化、3Dについてお願いしたんですけども、そのデモは今どようになっているか答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

電子化が進む中で、電子データ、各種の文書ですね。そういうものがふえてきております。そういう中で、文書ファイルを探し出すために時間を要しているということについては認識をしております。

先ほど黒岩議員さんから考え方を御提示いただきました3Dについては、武雄市の最高情報アドバイザーである山崎さんから助言をいただきながら研究をしましたが、受け売りですので十分な説明になるかどうかわかりませんが、議事録を例に3D検索の考え方についてまとめてみましたので、よろしく申し上げます。

〔23番「切りかえを」〕

（モニター使用）この場合は議事録ですので、こういう文書をワープロとかエクセルで作成をしますと、通常は各課のフォルダーに入れます。この場合については、ワープロなどで作成した文書は未整理のままフォルダーに入れるということで、今までと一緒にございます。

これからが違う部分でございますが、使えそうなキーワードというものをあらかじめ設定するということでもあります。言ってみますと、第1ステップとして準備段階というふうに考えてよろしいかと思えます。例えば、キーワードとしましては、こういう環境問題であるとか、ごみとか、そういうキーワードを振っておくということですね。

続きまして、こういうふうに振っておきますと、自動的にオートタグという機能で書類にキーワードを張りつけると。タグといいますと、ラベルといいたいでしょうか、こういうものを張りつけると。例示的にいきますと、例えば、こういう形でごみ処理であるとか、環境であるとか、焼却とか、健康だとか、こういういろんな質問が出たとします。あるいはそれに答弁を書いたとしますと。こういうタグ張りつける。これを機械的に、キーワードを張りつける。こういうふうに自動的に各文書に張りつけますと、その中で、次に検索ということになります。例えば、焼却方式に決定をした理由というのを探したいと、そういう問い合わせに答えるというときに探したいということになりますと、検索ということで、こういういろんな形の段階の文書が広い野原に広がっているというイメージで考えていただいて、ごみ処理の決定理由というものを自動的に探していくということで、先ほどのページで自動的にキーワードを結びつけるというふうなイメージ図を出しましたが、こういうふうに平面、地平上にいろんな文書が広がっているときに、俯瞰的に——上空から鳥の目というお話もいただいておりますが、そういう俯瞰的に眺めてみて、必要な文書を発見する。そういうのが3D検索ということではないかというふうに考えているところであります。

ここの中で一番のポイントにつきましては、使えそうな単語——タグですね。これを設定すると、ここが一番ポイントになるのではないかというふうに考えているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私もこれでわかりました。世界で最もすぐれた検索システムというのはグーグルです。グーグルで、例えば、武雄市というふうに入れると、例えば、武雄市長でもいいんですけど、120万出てくるんですね。武雄市長と入れると120万出てきます。その中で何が上位に出てくるかという、ここが大事で、グーグルが勝手に重要だと判断したものについて上に出てくるんですね。ですので、自分が探したいというのは、グーグルの探すものと必ずしも一致しない。ですが、こうやってタグづけとか、ラベルづけをちゃんとしとくと、そこに行く可能性というのは極めて高いというのはメリットの1つ。

2つ目が、先ほど部長からもあったように、この絵姿というのは鳥瞰図で見られるわけですね。見られますので、そこから選ぶことができるという意味でいうと、きょうの部長の説明でわかりました。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

昨日の牟田前議長さんの答弁の中にはね、ぜひともそういうのをつくって行って、武雄発をつくりたいということでしたので、ぜひともそれにこの先まで踏み込んでいただきたい。時間がないので、お願いして、次の質問に移ります。

次は、これもぜひ必要なんですけど、高速回線を利用して、市長さんね、無線LANを利用したまちづくりをしたらどうかということですね。空き家対策とお年寄り対策、そして起業家の育成ということです。フェイスブックの社長は28歳というんでしょう。だから、企業形態はもう変わっているというのは市長さんもおっしゃいましたけれども、これを考えた場合、例えば、これは楼門ですけれども、楼門を中心として、ここに高速回線を結ぶことによって、これを真ん中とすれば、大体半径500メートルぐらいがエリアに入るという話を聞きましたね。赤点を打っているのはほとんど空き家ですよ。調べていただきまして、40軒ある。

これはテレビに映らんかわかりませんが、この温泉の南のにきに40軒ぐらい空き家があると。空き家対策にもなると思いますし、ここはいやしの里にもなると思うんですね。だから、こういうところに先ほど言いました高速回線を利用した無線LAN地帯というんですか、そういう発想もぜひともしていただいて、起業家を寄せるお考えはいかがでしょうか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

限界集落で苦しまれておられる徳島県の神山町——神の山の町が非常に高速の回線を使って、その高速の回線を目当てにいろいろな事業者とか起業家とかアーティストが集まっているということなんです。それで、東京にいるよりは物すごく快適、空気はうまい、人がいい、食べ物も安くておいしいということで、実際、こういう画面を通じてテレビ会議をされている。今回、山崎最高情報アドバイザーの指導のもと、今度、杉山隆志さん、大名なうとかやられている方で、クローズアップ現代にも出られた方なんですけど、この人を市政アドバイザーにしました。実際、神山町を仕掛けた1人でもありますので、最高情報アドバイザー山崎さんと杉山さんとよく話をしてもらって、この場所の設定についても、もう一回ちょっと吟味をさせてください。

これはIT特別委員会にまたお諮りをしたいと思いますので、ぜひこういうエリアを区切って、光並みの高速回線を通すようにしたいと思います。それによって、物すごく快適に、できれば無料ですることによって、起業家が集まる、そういう素地はぜひつくりたいと思っていますし、これは全国に先進例があつと幾つか神山町のほかにもありますので、よく調べて

武雄らしい起業家の育成のプラットフォームにしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

神山町では、ちょうど写真が出たんですけど、川の中で涼しそうにパソコンを使っていた。そういうのを見ましたけれども、ここもいやしの里になると思うんですね。

時間がないので、次の質問に移りますけれども、次は国民健康保険についてでございます。

具体的な保険料抑制策についてということでございます。少し急ぎますが、40年から19年を調べて、国保の世帯の職業の推移ということで、これは3月定例議会に使ったやつですけども、改めて見てみますと、農林水産業、自営業がこれだけ減っている。つまり、67.5%が18.2%まで減っているんですね。職業ですよ。そして、一方、被用者、無職者が32.5から81.8%です。つまり、ここですよ。無職者が6.6から55.4%にふえている。国保世帯主の職業が無職が55というのはもう既に崩壊しています。

さらに、これも3月定例会に使用しましたけれども、任意継続保険と国保ということで説明しました。これは保険料の比較をあのときしたんですね。ここに書いていますけれども、3年後はみんな国保になっているんですよ。病気したり失業したりして——病気して病院に行かにかいかんごとになった、あるいは失業して金がなくなった。皆さんもみんなそうでしょう。元気なときはほかのところで働いて、全部国保になっている。つまり、国民健康保険制度は既に崩壊しております。保険料の値上げを抑制するために、この分、制度的値上げ分、加入者の仕方ないところは仕方ないと、このことについてはぜひとも補てんしていただきたいと思っておりますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

時間ありません。急いでください。前田副市長

○前田副市長〔登壇〕

国保の問題については、昨年来、庁舎内でも関係各課で論議をしております、できれば次の9月議会ぐらいには具体的な対策案を示したいということで、さきの議会では市長のほうから一般会計への繰り入れの話もあっておりますが、その財源としても、我々としては今検討しております、今眠っている基金と申しますか、地域福祉基金というのがありまして、これが約6億円ちょっとでございます。これはほとんど今活用されておられませんので、そこら辺を何とか活用できないかということで、今担当部署に指示をしておりますので、そこら辺を含めて9月の議会あたりには具体策を出していきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

次は、放射能問題についてでございますけれども、市長さんね、昔の話ですけれども、トラがおりから逃げた。想定外の地震のため、おりが壊れてトラがおりから逃げたんですね。飼い主は今度はおりが壊れない。全責任を持つ。何か野田さんという飼い主のごたるですね。言っているんですね。トラを捕獲しない。放射能を動かさない飼い主を市長は支持をしますか。最後の質問とします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

信用しません。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

放射能問題はいっぱいありますけれども、途中になりますので、これで終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。